

輪は判らない。

今回ののは私が一番研究の浅い方面である上に、多忙の爲め大急ぎの起稿であるから、誤脱も定めて多い事と思ふ。いづれ他日訂正の折もあらうから、夫れ迄は役員の方々並に讀者諸彦のお宥を願ひ度いのである。(大正十年二月二十日稿)

紹介

●日本風俗全史卷一(結髪化粧史上冊)

文學士 江 馬 務著

我國風俗に關する史的研究の必要なるは言ふまでもなき事ながら其關係する所頗る廣汎に亘るを以て容易に手を下し能はざりしが今や篤學精勵なる江馬學士の日本風俗全史の連続出版を見るに至りしは學界のために大に慶賀すべき所なりとす本書は三浦博士の序文にも見ゆる如く從來の風俗史が社會全般の風俗を各時代に列擧せしに對して史上の事項に横斷的に記述したる所に其特長を認むべく今回公けにせる結髪化粧史は全史出版の壯舉の第一歩たり

先づ第一編序説には風俗史に關する一般的記述をなし固有風俗時代、唐風模倣時代、國風發達時代の三編に大別して各編首に時代の概觀を述ぶ例せば、二編固有風俗時代第一章先史時代に於ては先史民族として存在せし土蜘蛛蝦夷の如何なる人種なるやに關しては考古學者間にコロホツクル説及アイヌ説ありて未だ一定せざれども後世の傳説を引用して其真相を明かにすべしとて景行紀四十年の條によりて彼磐穴居の遺跡は堅穴として殘存すとし貝塚發見品によりて其髮風化粧を徵し得べしとせるの類なり而して各編を髮風、容飾、化粧等の諸節に分ち并に髮、櫛、鬘、耳飾、入墨白粉、紅、齒黒等の諸項目に就きて或は考古學者の説を引き或は記紀、風土記、歌謠、嬉遊笑覽、挂林漫錄等により、或は又土偶神像、繪卷物によりて記述せり第三編唐風模倣時代第一章髮風第二節女子の條に一筋垂髮、三筋垂髮、頭上一髻等を神像より説きたるが如きは本書獨特の點たるべし寫真版十三葉を添ふ菊版一八九頁(定價五、〇〇)京都山本文華堂發行(中村)

●撰進千二日本書紀古本集影 一帖

百年紀念

大正九年は恰も日本書紀の撰上後滿一千二百年に相當せるより東京に於ける日本書紀撰進千二百年紀念會に於ては同年五月二十二日其記念祭典及び講演を催し翌日書紀古本の展觀を行ひたりしが本書は當日出陳せられたるもの、中重なるもの、寫真七十枚と陳列圖畫六十二部の解説を收め又芳賀博士「日本書紀に就きて」百鳥博士「東洋史上より觀たる日本書紀」黒板博士「日本書紀撰修の

由來」の各講演筆記と同記念會の記事を録するものなり其前年五月十日京都に於ても同様記念會を催し關係古本の展覽と講演とを行ひ展覧書目録を頒ちたりしが東京は一年後の開催なる丈同會に出陳を果たさざりし希觀書數種を加へたり本帖に收むる寫眞はよく各時代の代表的古本を網羅し解説亦概ね簡明にして要を得たるものを見る吾人は中心より最も意議ある此好記念帖を得たるを喜ぶと同時に其發行部數の僅少にして學海の渴望を滿たすに足らざらんことを憾とするものなり (東京日本書紀撰進千二百年記念會發行、非賣品)(三浦)

●支那唐代の服飾

文學士 原田淑人 著

本書は去三月公刊の東京帝國大學文學部紀要第四冊に充當せられたる長編の研究論著にして著者が同學部に支那文化史を講ずる傍ら特に唐代文化史に就きて研究したる結果の中、服飾に關する部分のみの梗概を記述したるものなり此の種の研究の甚だ難事たる所以のものは獨り文獻の不足せる場合に於て然るのみならず文獻豊富なりと雖も支那記録の常套として多くは記述に盡し得ざる微妙の點を一目瞭然たらしむるに必要缺くべからざる圖畫を缺きたれば、其の大意は斐然し得ても眞に其の形象を捕捉し學術的價值ある決定的結果を獲得し難きは少しく識ある者の等しく感ずる所なり著者即ち其の根本資料を現存の圖畫彫刻と發掘遺品に求め一精査して以て記録と相參照し今日の學界にて爲し得るだけ正確なる結果を求めたるなり全篇五章に分れ第一章緒説に於ては我王

朝の服飾を知らむには先づ唐朝のそれを討究することの必要より之が研究の資料存在の大勢を叙し第二章唐代の織染にて支那織物の發達、唐代織物の種類、唐代染色の種類、唐代の刻繡、唐代の文様を説き第三章武德令の服飾並に爾後の變遷は武德令に見ゆる天子、皇太子、群臣、皇后、皇太子妃、命婦等の服飾と貞觀以後の服制を總述し、第四章唐代一般服飾にては男子女子の服飾を謂ひ第五章餘説として唐代奢侈の有様より開元二年の禁令、揚貴妃一族及び元載の奢侈、大曆六年の禁令、玄宗改革の失敗を述べたり挿圖十三個何れも皆精巧にして殊に三色版立女俑は眞に逼るの趣あり圖版十六個亦甚だ鮮明、索引の用意ある本文と相待ちて海に稀に見るの好論著なり特に吾人は再三翻讀して尙ほ卷を覆ふに堪はざる愉快と共鳴とを感ぜり敢て江湖に愛讀あらむことを勸む (丸善株式會社發賣 定價未詳)

●窓齋專瓦錄

本書は吳大澂の古瓦拓本を石版に附したるものにして瓦當十個瓦額一個甄七個を收む、何れも文字瑰璋、制作機茂にして而も未だ他の著錄に上らざりしもの、異文は以て字書の缺を補ふに足り繪畫文様は以て支那上代美術の一端を察すべく其の時代より謂へば戰國末期より前漢頭初に及べり (西泠印社發行)

●清代學術概論

梁 啓 超 著

清末の今文學運動が思想界に大なる影響を與へし際其運動に當り